



宮司プレス ハナカケ

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十五年八月三十一日

◇宮司の柴田です。 発行日のワースト記

録を塗り替えつつ、とうとう茶飯事(さはんじ)の月末となつてしまいました。 宮司プレスの発行に限っては、私の「ルーティーン(決まりきった手順)」になりつつありまして、猛省(もうせい)せねばと思います。 既

(すでに)発行した「宮司プレス」の閲覧(えつらん)コーナーを、お宮の西回廊(にしかいろう)休憩所の入り口に設けています。 そのコーナーに、お立ち寄りになり、今月号の発行を確認する方もいらつしやれば、「宮司さん、今月号はまだ。」と、お声をかけて下さる方もおられ、「早く編集しなきゃ。」というプレッシャーを感じながら、今日の日を迎えています。 みなさん、お待たせしました。 第八十七号の発行の運びとなりました。

「愛する」の反対語は、何だとお考えですか。「憎しみ」でしょうか、いいえ、そうではありません、実は、「無関心」なのです。 PTAの活動を長くさせて頂きましたが、理不尽なクレームや無理難題を述べられると、その瞬間はとても嫌な思いをしますが、意志を

お示しになつていらつしやるのでありまして、最大の敵は、全く関心をお示しにならない方々なのです。 そうしますと、「宮司プレス」も、少なからず愛されているのでありまして、心から感謝申し上げますが、続けていかななくてはと決意も新たにしています。 ただし、発行日を早める努力も肝要(かんよう)ではありますが、ルーズベルト大統領(う)ではあります。 ルーズベルト大統領は、「最初に月を目指せ。 なぜなら、たとえ取り損(そこ)ねても、そこから、星を目指すことができる。」と仰(おっしゃ)いました。 当面の「星」である大目標の「第百号発行」も見えてはきましたが、「月」である小目標の「第八十八号発行」、せめて、朝粥(あさむすび)会までの発行を目指したいと思えます。

◇過日、懇意(こんい)にしている漁師(いし)さんから、見たこともない魚(うい)が網(あみ)にかかり、下関水族館(しもつけさくわくかん)に届け、南方(なんぽう)の海(うみ)に生息(せいじつ)する魚(うい)だと判明(はんめい)したという話を聞かされました。 身近(みぢか)にも、異常(いじょう)な暑(あつ)さゆえの出来事(できごと)を目(め)の当(あた)りにするようになりましたね。 「平均(へいきん)気温(きん)」と「日照(じやうしやく)時間(じかん)」、さらに、「最高(たか)気温(きん)」の記録(きらく)を更新(かへ)し、

「記録的(きらくてき)猛暑(まうしょ)」といわれた八月(はつげつ)も、終わりを迎(むか)えました。 朝明(あさ)けの境内(けいん)は、ひんやりとして心地(こころ)よく、ようやく秋(あき)の気配(きはい)を感じています。 ◇「初老(しよらう)」という言葉、ご存じでしたか。 老境(らうきやう)入りかけた年(とし)ごろのことで、もともとは四十(よんじゅう)歳の異称(いせう)のことなのだそう。 論語(ろんご)に、「吾(われ)、十有(じゅう)五(ご)にして学(まな)びに志(こころ)し、三十(さんじゅう)にして立つ。 四十(よんじゅう)にして惑(まど)わず、五十(ごじゅう)にして天命(てんめい)を知る」とあります。 確かに人生(じんせい)五十年(ごじゅうねん)の時代(じだい)には、「四十(よんじゅう)にして惑(まど)わず」の年(とし)回り(まわり)になれば、老(おい)いを意識(いしやく)したでしょう。 生活(せいかつ)が便利(べんり)になり食生活(しょくせいかつ)も格段(かくだん)に向上(こうじやう)し、抗(かう)加齡(かにやう)(こうかれい)、アンチエイジング(anti-aging)がもてはやされる昨今(けつこん)、見た目(め)も気持ち(こころ)も若い、いわゆる「アラフォー」世代(せだい)の男女(なんにょ)、「初老(しよらう)」のもと(もと)の意味(いみ)と、あまりにもかけ離(はな)れ、別世界(べつせかい)ですよ。 それでは、現在の初老(しよらう)の年代(ねんたい)はといえますと、NHK放送文化研究所(えんどうはくほうぶんかけんさくじょ)の調査(きョウさ)によりますと、男性(たにせい)五十五(ごじゅうご)・五(ご)歳(さい)、女子(むすめ)五十八(ごじゅうはち)・四(よ)歳(さい)だそうです。 ちなみに、私は五十一(ごじゅういち)歳(さい)なので、「初老(しよらう)」に入(い)らないようでありませぬ。 宮司(みやじ)を兼ね(かね)ている六連島八幡宮(むつらじまはつぱんぐう)では、数(かず)え四十一(しじゅういち)歳(さい)を迎(むか)えたお正月(おしょうげつ)に、「初老(しよらう)の祝(いわい)」をする習(な)わしがあります。 八幡宮(はつぱんぐう)に参拝(さんぱい)し、厄除(やくじよ)けの祈願祭(きげんさい)の御神(みかみ)

楽（おかぐら）を奉納し、自宅にて家族や親戚一同を招き宴（うたげ）を催（もよお）すという行事です。「初老」という言葉とその本当の意味、大事に伝えていきたいものです。総務省の発表によれば、初老より年長の六十五歳以上の「老年人口」が今年三月末時点で三千万人を超え、さらに、驚くべきことに、十五歳から六十四歳までの「生産年齢人口」、つまり世の中の働き手の数は、八千万人を割り込んだそうです。年金を受ける高齢者が急増しているのに、それを支える労働力は減るばかり、少子高齢社会のすさまじさを物語る数字でもあるし、日本の危機的状況の深刻さでもあります。

◇竹には、「六十」の節目があるそうですが、しかも、「竹の子」のころからあるそうなのです。人生にも様々な節目がありますが、日本の国も大きな節目を迎えています。来月は、伊勢の神宮さんでは、いよいよ「式年遷宮（しきねんせんぐう）」のクライマックスともいえるべき「遷御（せんぎよ）」が行われます。御遷宮（ごせんぐう）の大義、重要で大切な意義というものは、「常若（とこわか）」であります。「常若」というのは、常にみずみずしく清々しい、生命力あふれる状態を尊（とうと）ぶ、わが国の伝統的な考え方、心であります。二十年の一度のお建

て替えの遷宮によって、神宮の神様の神威（しんい）、威光（いこう）威力（いりよく）、つまりは、お力が、永遠に若返るのであります。そして、二千年前の第十一代垂仁（すいにん）天皇の皇女（こうじよ）である倭姫命（やまとひめのみこと）の御巡幸（ごじゅんこう）による伊勢鎮座（いせちんざ）を、二千年毎に再演するのであります。時を超えて先人たちが営々と伝えてきた神祭りの心と技、その感激を共有する、まさしく、二千年前の原点に帰る、原点回帰（げんてんかいき）なんですね。

◇過酷災害（かこくさい）がい、シビア アクシデント）の福島の原発をはじめ、内憂外患（ないゆうがいかん）の危機的状況化の日本ではありますが、この二十年に一度の大きな節目であればこそ、解決にむけて、良き方向へシフトし軟着陸（なんちゃくりく）できることを願うものです。そのためにも、「御遷宮の心」である、「常若」という前向きな心掛け、未熟さゆえのひたむきさ、「初心に帰る」、謙虚に自分を見つめる、「原点回帰」という心構えを忘れずに過ごしたいものです。

◇八月の祭典行事予定ならびに報告

▼月次祭 *八月一日、十五日

▼第八回まほろば学級 *八月三日

▼神道家中元祭 *八月三日〜八月十六日

▼朝粥会 *七月二十一日

◇八月の宮司の行事会議等予定、活動報告

▼八幡宮関係団体

◇行事委員会慰労会 *八月二日

◇維蘇志会例会 *八月三日

◇彦島八幡宮リーグ打合 *八月八日

◇神道会世話人会 *八月三十日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇支部三役会 *八月一日、二十日

◇支部幹事会 *八月六日

◇役員会 *八月二十五日

◇支部総会 *八月二十六日

▼神職養成講習会関係

◇「神社神道概説」の科目を担当

*八月三日〜十九日、二十五日〜二十六日

*お白石持行事」に参加 *八月十日



▼西ロータリークラブ

◇例会 *八月七日、二十一日、二十八日

▼下関中央倫理法人会 モーニングセミナー

*八月二十二日

▼迫町自治会若宮祭会議 *八月一日